

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	NPO 法人 よるべさ	代表者	小野田 直子	法人・事業所の特徴	南北に 70 キロ以上ある幌加内町の中でも市街地から 30 キロ以上離れた地域にある事業所です。介護サービスが市街地に集中しており、高齢化が進んだこの地域では除雪や病院が遠いなどの事情から地域を離れるしか選択がなかったのですが住み慣れた地域で最後まで過ごしたいという思いを支えていこうと開設されました。
事業所名	スマイルホームえん	管理者	蔵前 直美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0 人	0 人	6 人	0 人	1 人	1 人	0 人	3 人	0 人	11 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	今後も全員の意見が反映できるように、事前に自己評価した資料を集めて集計して意見交換する方法を取る。地域の皆さんには自己評価をどのように実施したかや、職員構成が分かる資料を別に添付する。中間期に自己評価も含め改善計画全体の進捗状況確認と、見直しをする。自己評価の内容を理解してもらうために、運営推進会議等で「小規模多機能型居宅介護事業とは」「サービスの進め方、関係資料」などの説明機会を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> 事業所評価が、地域の方にわかるように、職員構成の資料を添付するとともに、小規模で利用者様をどのように支えているかなど説明できた。 中間期に改善計画の進捗状況を確認し計画達成までの話し合いができた。 運営推進会議での説明機会はなかった。 		<ul style="list-style-type: none"> 引き続き計画を実施していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	来所者が来たらすぐに対応できる体制を作る。(寮の玄関にあるセンサーの反応範囲を広げる。受信機を持つ担当職員を決め、対応する。) 来所者名簿を作成し記録する。事業所で行事がある時は行事を行っている場所だけでなく利用者様が過ごしているところ等見てもらう。	<ul style="list-style-type: none"> 来所者名簿が記入されていない時があったが、意識して書いている。受信機が廊下に置きっぱなしのことが多かった。 センサーで来所者があることが分かっても「～だろう」という気持ちがあり、確認しないことがあった。 来所者名簿を作り施設への人の出入りが、利用者様との関係性が分からない時もあり、確認する必要があった。 事業所の行事がある時は、利用者様と地域の方との交流がある。以前より、行事がなくても顔を出してくれる地域の方が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラの設置を検討したら、良いのではないかと。 よその施設では、記入してから面会するのは当たり前になっているので、この事業所も同じようにしたほうが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 来所者があったら、名簿に氏名と、利用者様との関係性なども記入できるように、受付においておく。 センサーへの担当の職員を決め、対応する。 季節感を大事にする。その時期に合った掲示物など、利用者様と地域の方で作成する機会をつくる。 防犯カメラの設置について町と協議する。
C. 事業所と地域のかかわり	老人クラブ等の地域行事に職員が交代で参加する。現在行っている、よるべさ主催の地域交流事業を引き続き実施する。今まであまり利用していない方も参加しやすいように、内容や周知方	<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブとの交流は、職員が全員参加することができ、関係性が出来てきた。 行事のお知らせは、よるべさ通信の別冊や、元気コールでできた。参加者 	<ul style="list-style-type: none"> 職員紹介の掲示物は必要だと思うので、計画どおり、実施することが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当者が決まっているので、5月の事業所の行事までに、職員紹介の掲示物を作成する。 老人クラブ、地域行事への参加を、継続する。

	法などの見直しをする。職員全員を写真入りで紹介し、寮の壁に掲示する。	も増えている。 ・職員紹介の掲示物は担当者をきめるまでしか、至っていない。		・地域行事や事業所の行事を通じてお互いに協力し合える関係性を作る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	今迄通り、地域行事やイベントに利用者様が参加できるように計画する。担当者会議を開催するときに、地域の民生委員さん等に参加案内をする。	・担当者会議に民生委員さんや地域の方に参加してもらえたことで、利用者様と一緒に支える取り組みができた。 ・地域行事やイベントへは、利用者さんが参加できるように取り組んだ。		・引き続き取り組みを継続していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域の見守りネットワークを完成させる。地域に心配な方は居ないか等の意見交換を毎回の会議で行う。よるべきで実施したイベント、地域交流事業の報告と意見交換を会議で行う。	・地域のネットワークが完成できた。 ・会議ではいろいろな意見をいただき毎回、活発になっているがいつも決まった方しか発言がない。		運営推進会議に参加した方、全員に積極的に発言してもらえるように会議の進め方を検討する。(座席や議案内容) ・助け合いネットワークを実際に訓練し、今後の課題など検討する。
F. 事業所の防災・災害対策	火災のみならず、水害など他の災害も組み込んだ防災計画(案)を立て運営推進会議で検討する。朱鞠内地区にある防災備品の確認。及び事業所としての防災備蓄の確保。避難訓練の案内をする。	火災訓練は行っているがその他は出来ていない。 ・防災備品の確認は出来たが、事業所としての備蓄は完全ではない。マニュアルが出来ていない。 ・年1回だと忘れそうになる。日ごろから訓練を頭に入れておかなければならない。	・自治区との兼ね合いもあるので、一緒に計画を立てる方が良い。 ・自治区から借りれるものはそれでよい。調整してはどうか。	・年2回の避難訓練を必ず実施するために、年間計画を立てた時点で消防署に予定を伝える。 ・他施設の防災マニュアルを参考に、事業所に合った防災計画を立て、運営推進会議で検討する。 ・避難訓練は外に出た時点で終了しているの、そこからの動き、協力体制も計画に入れる。 ・自治区と協議して、物品の調整を図る。